

『正信偈』に親しむ ⑬

てんじんぼさつ
天親菩薩 (下)

・ ・ ・ ・ ・
むなしくない人生

親鸞聖人は、七高僧の徳を讃えて多くの和讃を残しておられます。真宗の寺院では、毎日これらの和讃をお勤めしています。天親菩薩を讃える和讃は十二首を数えます。その代表的なものを紹介します。

ほんがんにき
本願力にあいぬれば

むなしくすぐるひとぞなき

くどく ほうかい
功德の宝海みちみちて

ぼんのう じよくし
煩惱の濁水へだてなし

私たちは、いつでもない今を、どこでもないここに、そしてだれでもない自分自身として存在しています。その自分自身が、「こうあつたらしいのに」と思う、その思いどおりになっているときは問題がないのですが、そうでない時には、今の自分自身の現実をどうしても引き受けることができません。欲の心、いかり、はら

だち、ねたみなどの煩惱は、私たちが今の自分を受け入れられないことから起こってきます。親鸞聖人が明らかにされた教えでは、私たちの誰もがそこから生まれ出てきて、やがてそこへ帰っていくところを阿弥陀如来のお浄土として示されています。

競争し傷つけあう生き方に終止符を

私たちは、いつでも自分が一番かわいいという意識を中心として、勝他の心(権勢欲)、名聞の心(名誉欲)、利養の心(財産欲)をもつて生活しています。そのため、競争に勝てば優越感と満足感に酔い、逆に負ければ劣等感に沈んで、心の平安を失ってしまいます。これは、むなしく過ぎていく人生となります。阿弥陀如来は、私たちの競争し他を傷つけあう生き方に終止符をうち、敬い合う生き方をせよと呼びかけつづけてくださるのです。



天親菩薩

(本文・読み方)

(現代語訳)

きんこうどくたいほうかい
帰入功德大宝海

めぐ
仏の恵みに満ちた宝のよ
うな願いを信じれば

ひぎやくにゆうだいえしゆうしゆ
必獲入大会衆数

せっぽう
必ず仏の国で説法に会う
聴衆の数に入るのです

とくしれんげそうせかい
得至蓮華蔵世界

れんげ
蓮華のような世界である仏
の国に至りつけば

そくしやうしんによほつじやうしん
即証真如法性身

しんじつ
すぐに真実のさとりを身
にうけて

ゆうぼんのうりんげんじんずう
遊煩惱林現神通

れんげ
煩惱はげしい生活の中でも
いのちの感覚を失わず

にゆうしやうじおんじおうけ
入生死園示応化

しんとしの不安におののく現
実の中に入ってもまるで、
林や園に遊ぶように楽しく
かわり続けていきます。

雑想記

▽年末には、宝くじ売り場が賑わうものだが、最近あみだくじを引くことがあった。あみだくじができたのは室町時代。当時は中心から放射線状に人数分の線を描いた。これが阿弥陀如来像の光背(後光)に見えることから、あみだくじという名がついたようだ。▽真宗では「念仏して、阿弥陀さんにまかせなさい」といわれる。当時、念仏の教えが庶民の生活によく溶け込んでいたことに驚かされたことである。(y)